

SRS 220A SRS 210A SR 200A

取扱説明書（応用編）

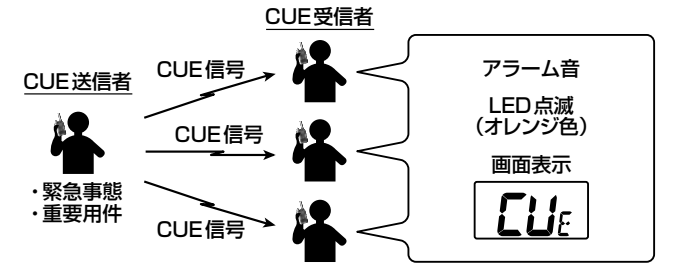
EN011U056 (2308I-FS)

特定小電力の旧機種との互換性に関して

“CUE 機能”、“個別呼び出し機能”、“クローン機能”は、SRS220AなどのAシリーズと旧機種 SRS220/SRS210/SR200 との間では動作しない場合があります。旧機種のソフトウェアのアップデートを行うことによりAシリーズとの互換性を持たせることができますので、必要な場合は当社国内営業部（電話：03-6404-6525）にお問い合わせください。

CUE（キュー）機能による緊急アラーム

グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく、設定した音量でアラームが鳴り、同時に LED インジケータがオレンジ色で点滅して、画面に“CUE”を表示させますので、相手が音量を下げたまま忘れていた場合でも、確実に緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。CUE を受信した時にトランシーバーの近くにいなかった場合でも、“CUE”の表示と LED インジケータの点滅が継続しますので、戻った時に緊急着信があったことがわかります。



■ CUE 緊急信号を送出する

[CUE] ボタンを 1 秒以上長押しすると「ビビピッ」と電子音が鳴り、CUE 緊急信号を送出します。

■ CUE 緊急信号を受信する

CUE 緊急信号を受信するとアラームが鳴り、画面表示と LED インジケータの点滅で知らせます。

- 補足**
- ・[CUE] ボタンを 2 回続けて短押しすると「ビビッ」と電子音がして画面に約 2 秒間“CM-ON”が表示され、CUE 緊急信号を受信してもアラーム音が鳴らなくなります。再度同じ操作を行うと、アラーム音が鳴るようになります。
 - ・PTT（通話）スイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手と通話することができます。
 - ・“CUE”の表示と LED インジケータの点滅は、いずれかのボタンを押すと元の状態に戻ります。

注意 イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバーのスピーカーからアラームが鳴ります（下記の操作で、鳴らないようにすることができます）。

◎ アラーム音の種類と設定を変える

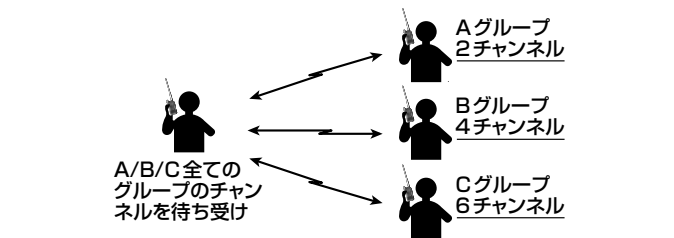
CUE 緊急信号を受信した時に鳴るアラーム音を 3 種類から選択できます。また、イヤホンやヘッドセットを接続している時に、トランシーバーのスピーカーからアラーム音を鳴らさないようにすることができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“CBP”の表示にして [CUE] ボタンを押します。“CBP”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押してアラーム音を設定します。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

表示	アラーム音
SP-A	“ピロッ”
SP-B	“ピロッピロッ”
SP-C	“ピロッピロッピロッピロッ”
A	“ピロッ”
B	“ピロッピロッ”
C	“ピロッピロッピロッピロッ”

マルチチャンネル待ち受け機能

複数のチャンネルをスキャンしながら待ち受けを行い、信号が入ったチャンネルで通話を行うことができます。この機能を使って、グループで異なるチャンネルを使用している状況で、グループの全てのチャンネルをモニターしながら通話を行うことができます。



注意 マルチチャンネル待ち受け中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 待ち受け受信するチャンネルを決める

待ち受け受信するチャンネルを最大 10 チャンネル登録できます。

- 待ち受け受信したいチャンネルにあわせませす。
[CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを同時に押します。
待ち受けチャンネルとして登録され、画面左上に“■”が表示されます。
- 同じ操作を繰り返して、待ち受け受信したいチャンネル全てを登録します。

補足 待ち受け受信の登録をしたチャンネルは、もう一度 [CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを同時に押すと登録が解除され、画面の“■”が消えます。

■ 待ち受け受信をする

- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
 - ・待ち受け登録されている全てのチャンネルで信号の待ち受け受信がスタートします。
 - ・“MCW”が表示され“■”が点滅します。
- 信号を受信した時は受信したチャンネルで待ち受けが止まり、相手の話を聞くことができます。チャンネルが表示されている間に PTT（通話）スイッチを押すと送信することができます。

補足 一時的に待ち受け受信したくないチャンネルは、[ON▼] または [▲SET] ボタンを押してチャンネルを選び、チャンネルが表示されている間に [CUE] ボタンと [▲SET] ボタンを同時に押すと、約 3 分間待ち受け受信の対象から外れます。3 分経過後、または同じ操作を繰り返すか一度電源を切ると、再び待ち受け受信の対象に戻ります。

■ 待ち受け受信中の送信チャンネルの変更

待ち受け受信中に PTT（通話）スイッチを押すと、前回信号を受信したチャンネルで送信しますが、他のチャンネルで送信することもできます。

◎ 待ち受け登録されているチャンネルから選ぶ

- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、送信したいチャンネルを選びます。
- チャンネル表示が“MCW”に変わる前に PTT（通話）スイッチを押すと、選んだチャンネルで送信します。

◎ あらかじめ決めたチャンネルで送信する

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“TXCH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。“TXCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“S-CH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“S-CH”の表示にして [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、送信するチャンネルを選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ マルチチャンネル待ち受け受信をやめる

- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
マルチチャンネル待ち受け機能が OFF になります。

■ 2つのチャンネルを交互に受信する（デュアルレシーブ機能）

現在のチャンネルともう 1 つのチャンネルを交互に受信する機能で、もう 1 つのチャンネルで同じグループコードを含む信号を受信すると交信することができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“TXCH”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“TXCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“DR”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
- 同様に下記の 2 項目を設定します。
S-CH → 現在のチャンネル以外に受信したいチャンネルを選択
S-GP → 相手と同じグループコードを選択
- PTT（通話）スイッチを押します。
- 一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。
現在のチャンネル番号の右側に“DR”が点灯して、デュアルレシーブが動作します。
[ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、チャンネルを変えることができます（登録した待ち受け受信チャンネルのみ）。

◎ デュアルレシーブ機能をやめる

一度電源を切り、[ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを押しながら電源を入れます。デュアルレシーブ機能が OFF になります。

アラームで緊急を知らせる（エマージェンシー機能）

緊急時に最大音量で“ピーッ”とアラーム音を鳴らし続けて周囲に緊急事態を知らせます。

注意 ・オートチャンネルセレクト機能が動作中は、エマージェンシー機能は動作しません。
・イヤホンやヘッドセットを接続していても、トランシーバー本体のスピーカーからアラームが鳴ります。

■ エマージェンシー機能を使うようにする

- 一度電源を切り、[CUE] ボタンと [▲SET] ボタン押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、“CU-EC”を選びます。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ 緊急を知らせる

[CUE] ボタンを 1 秒以上押し続けます。

アラーム音が鳴り続け、画面の表示が点滅します。

補足 ・PTT（通話）スイッチを押すとアラーム音を中断して通話することができます。
・[CUE] ボタンを 1 秒以上押すか、電源を切るとエマージェンシー機能の動作は停止します。

■ エマージェンシー機能の動作を変える

アラーム音と同時に自動で送信したり、LED インジケータを点滅させたり、また、緊急連絡用チャンネルに自動で移動することができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“EMGC”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“EMGC”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押してエマージェンシー機能の動作を選びます。

ALAM：緊急アラーム音で緊急を知らせます。

CH：アラーム音は鳴らせずに、緊急連絡用チャンネルに自動で切り替わります。

～緊急連絡用チャンネルの設定方法～

緊急連絡用チャンネルにしたいチャンネルにあわせてから、上記 1. ～の操作を行うと、そのチャンネルが緊急連絡用チャンネルに設定されます。

CL：緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になります。
CL-LT：緊急アラーム音を鳴らし、自動的に送信状態になり、LED インジケータを点滅表示させます。

- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

個別呼び出し機能

個別呼び出し機能では、次の 3 種類の呼び出しができます。

- ◎ 個別呼び出し
01 ～ 99 の中から、指定した ID に設定している局だけを呼び出します。
- ◎ グループ呼び出し
10 グループ（グループ ID G0 ～ G9）の中から、指定したグループ ID に設定している局だけを呼び出します。
- ◎ 全局一斉呼び出し（ALL）
全ての局を一斉に呼び出します。

補足 ・あらかじめ仲間同士で、個別 ID やグループ ID を設定してください。
・電波の弱い場所やノイズの多い場所では、個別呼び出し機能が動作しない場合があります。

注意 個別呼び出しを使用中は、オートチャンネルセレクト機能やサブチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 個別呼び出しを使うようにする

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 SELC”の表示にします。
“個 SELC”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、個別呼び出し機能で運用できる最大局数を選択します。
20：個別 ID “01” ～ “20” までの 20 局
99：個別 ID “01” ～ “99” までの 99 局
OFF：個別呼び出し機能は動作しません。
- PTT（通話）スイッチを押します。
画面に“個”が表示して個別呼び出し機能が動作します。

■ 自分の個別 ID やグループ ID を設定する

個別呼び出し機能で使用する「自分の個別 ID」と「自分のグループ ID」を設定します。

注意 あらかじめ、上記の「個別呼び出しを使うようにする」の操作で、“OFF”以外の設定にしてください。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 ID”または“個 GRP”の表示にします。

[ID]：自分の個別 ID を設定する時

[GRP]：自分のグループ ID を設定する時

- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して個別 ID またはグループ ID を選択します。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ 個別呼び出しをする

- [ON▼] ボタンと [CUE] ボタンを同時に押します。
画面に“SCAL”が表示されます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、呼び出したい相手の個別 ID やグループ ID を選びます。
全ての局を一斉に呼び出したい時は“AL”を選びます。
- PTT（通話）スイッチを押します。
上記で選んだ相手呼び出して、通常の画面に戻ります。

■ 個別呼び出しを受けた時の動作

個別呼び出しとグループ呼び出しの場合、画面にチャンネルと呼び出してきた相手の個別 ID またはグループ ID が交互に表示します。全局一斉呼び出しの場合は、画面表示はチャンネルのままで、着信音も鳴りません。

呼び出しを受けた後に PTT（通話）スイッチを押すと、通話することができます。

■ 個別呼び出しを受けた時に着信音を鳴らす

個別呼び出しを受けた時に、着信音を鳴らすことができます。

- 一度電源を切り、[▲SET] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して“個 BEEP”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [ON▼] または [▲SET] ボタンを押して、着信音を選択します。
1 / 2 / 3：着信音が鳴るパターンを 3 種類から選べます。
ただし、ALL で呼ばれた時は着信音は鳴りません。
OFF：着信音は鳴りません。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

仲間と通話可能かを常にチェックする

■ コールバック機能

グループモード時にコールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。また、当社の中継器を使用した中継通話を行っているときは、中継エリア（通話エリア）内にいるかどうかを電子音とアイコン表示で確認できます（中継器側の通話エリアを判定する機能を“ON”にする必要があります）。

注意 コールバック機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

- 通話できる時
- 通話できない時（圏内が点滅）
- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
 - [] または [] ボタンを押して“CLBK”の表示にします。
“CLBK”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
 - [CUE] ボタンを押します。
 - [] または [] ボタンを押して“ON”の表示にします。
 - [CUE] ボタンを押します。
 - [] または [] ボタンを押して“GRP”の表示にします。
 - [CUE] ボタンを押します。
 - [] または [] ボタンを押して“ON”の表示にします。
 - [CUE] ボタンを押して、続けて [] ボタンを押します。
 - “GRCD”の表示になりますので [CUE] ボタンを押します。
 - [] または [] ボタンを押して、仲間同士で決めたグループコード（GP01～GP50）またはDCSコード（D017～D754）にあわせて [CUE] ボタンを押します。
 - PTT（通話）スイッチを押します。

コールバック機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

通話可能かどうかは、電子音とディスプレイの表示で確認できます。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能	圏外になった時に一度だけ“ブブッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

補足 ・同じチャンネルで同じグループコードやDCSコードが他の使用者に使われている時は、“グループモードの設定”を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り替えてください。
・他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態になり、通話できません。

■ コールバック機能をやめる

- 上記の手順1～4を行い、手順4で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
コールバック機能がOFFになります。

秘話機能

秘話機能を設定した仲間同士だけが通話内容を聞くことができます。秘話機能を設定していない人は、通話内容が聞き取りにくくなります。

注意 同じチャンネルで秘話機能を動作させていると、通話内容を聞かれる場合がありますのでご注意ください。

- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [] または [] ボタンを押して“秘SCR”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“秘SCR”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [] または [] ボタンを押して“1”“2”“3”のいずれかの表示にします。通話する仲間全員が同じ数字にあわせてください。
- PTT（通話）スイッチを押します。
画面に が表示して秘話機能が動作します。

■ 秘話機能をやめる

- 上記と同じ操作を行い、手順3で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
秘話機能がOFFになります。

■ ARTS 機能

ARTS 機能用の10種類のDCSコードの中から、使用可能なDCSコードを自動的に選択して「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」を電子音とアイコン表示で常にチェックしながら通話できます。

注意 ・ARTS 機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。
・ARTS 機能は、中継チャンネルでは動作しません。

- 通話できる時
- 通話できない時（圏内が点滅）
- 仲間同士の全てのトランシーバーを同じチャンネルにあわせてから、全てのトランシーバーで以下の操作を行います。
- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
 - [] または [] ボタンを押して“ARTS”の表示にします。
“ARTS”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
 - [CUE] ボタンを押します。
 - [] または [] ボタンを押して“ON”の表示にします。
 - PTT（通話）スイッチを押します。
ARTS 機能がONになり、画面に“SYNC”が表示されます。
 - いずれか1台のPTT（通話）スイッチを押します。
仲間の全てのトランシーバーが自動で使用可能なDCSコードに設定され、チャンネルの右側に“AT”が表示されます。

ARTS 機能が動作して、画面に“圏内”が点滅表示します。相手が通話可能な状態になると“圏内”の点滅が点灯に変わります。

通話可能かどうかは、電子音とディスプレイの表示で確認できます。

状況	電子音	アイコン表示
通話可能	圏内になった時に一度だけ“ビビッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点灯する
通話不可能	圏外になった時に一度だけ“ブブッ”と鳴る	電子音が鳴った後“圏内”が点滅する

■ ARTS 機能をやめる

- 上記の手順1～4を行い、手順4で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
ARTS 機能がOFFになります。

補足 ・電源を切ってもARTS 機能はOFFになりません。次に電源を入れた時は、前回設定されたDCSコードでARTS 機能が動作します。
・仲間を追加する時は、上記の“ARTS 機能をやめる”の操作を行い手順4で一度OFFにした後に続けてONにします。その後手順5ではPTT（通話）スイッチを押した後 **1秒以内に** [] を押してください。

PTT ホールド機能 / 受信専用モード（送信を禁止する）

◎ PTT ホールド機能

一度PTT（通話）スイッチを押すと、再び押すまで送信状態を維持します。

◎ 受信専用モード（送信を禁止する）

送信を禁止して受信専用にできます。PTT（通話）スイッチを押しても“ERR”が表示され「ブーブー」と警告音が鳴り送信できません。

- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [] または [] ボタンを押して“PTT”の表示にします。
- [CUE] ボタンを押します。
- [] または [] ボタンを押して“HOLD”または“OFF”の表示にします。
NOR : PTTスイッチを押している間送信状態になります。
HOLD : 一度PTTスイッチを押すと、再びPTTスイッチを押すまで送信状態を続けます（PTTホールド機能）。
OFF : PTTスイッチが無効になり送信できません（受信専用モード）。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

補足 連続して3分間送信すると、送信が自動的に停止します。送信が停止する30秒前から画面にカウントダウンが表示されます。また、送信が停止する10秒前に「ビビッ」と警告音が鳴ります。

通話エリアを拡大する（中継器対応）

通話相手との間に障害物がある場合や相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できない時は、本機対応の中継器を中間点に設置することで、通話エリアを広げることができます。
使用できる中継器については、当社国内営業部にお問い合わせください。

注意 中継チャンネル使用中は、オートチャンネルセレクト機能は使用できません。

■ 中継機能を使えるようにする

- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [] または [] ボタンを押して“RPCH”の表示にします。
“RPCH”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [] または [] ボタンを押して“ON”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。

中継機能用のチャンネル(10～18、12～29)が使えるようになります。

1～9 通常の通話用 → 10～18 <中継用> → 01～11 通常の通話用 → 12～29 <中継用>

■ 通話のしかた

- [] または [] ボタンを押して、中継器と同じチャンネル番号にあわせます。
- “基本的な通話のしかた”と同様に通話します。

■ 中継器を使わない設定に戻す

- 上記の「中継器を使えるようにする」と同じ操作を行い、手順4で“OFF”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
以上で、中継器を使わない設定に戻ります。

■ ファスト接続機能

中継通話を行う時に、PTT（通話）スイッチを押してから、中継器が中継動作を開始して通話ができるようになるまでの時間を短縮することができます。

注意 中継器の“ファスト接続機能”も“ON”にする必要があります。

- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [] または [] ボタンを押して“RCP”の表示にします。
“RCP”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [CUE] ボタンを押します。
- [] または [] ボタンを押して“QK”の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押します。
ファスト機能がONになります。
- 通常どおり子機のPTT（通話）ボタンを押して通話をします。

信号を探す（スキャン機能）

自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。グループモード使用時は、同じグループコードを含む信号を探します。
信号を受信するとスキャンが一時停止して、信号がなくなると約10秒後に再びスキャンを開始します。

注意 スキャン機能を“ON”にすると、オートチャンネルセレクト機能は“OFF”になります。

- 一度電源を切り、[] ボタンを押しながら電源を入れます。
- [] または [] ボタンを押して“SCAN”の表示にして、[CUE] ボタンを押します。
“SCAN”が表示されない場合は“SETM”を表示させて“ALL”に設定すると表示されるようになります。
- [] または [] ボタンを押して“ON”の表示にします。
ON : スキャン機能をONにします。
OFF : スキャン機能をOFFにします。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

■ スキャンを開始する

[] ボタンを1秒以上押す：チャンネル番号の大きい方向にスキャン
[] ボタンを1秒以上押す：チャンネル番号の小さい方向にスキャン

補足 ・中継機能用チャンネルでスキャンを開始すると、中継機能用チャンネルだけをスキャンします。通常チャンネルでスキャンを開始すると、通常チャンネルだけをスキャンします。
・スキャン中に [] または [] ボタンを押すと、スキャンする方向が変わります。

■ スキャンをやめる

PTT（通話）スイッチまたは [CUE] ボタンを押すとスキャンが停止します。

[CUE] ボタン / PTT（通話）スイッチの機能を変える

[CUE] ボタン、PTT（通話）スイッチを操作した時の機能を変更できます。工場出荷時は以下の機能が割り当てられています。

[CUE] ボタン : 緊急連絡や重要な用件の通知を行う“CUE 機能”
PTT（通話）スイッチ : 送信 / 受信を切り替える

- 一度電源を切り、[CUE] ボタンと [] ボタンを押しながら電源を入れます。
◎ [CUE] ボタンの設定をする場合 そのまま手順2へ進みます
◎ PTT（通話）スイッチの設定をする場合 [CUE] ボタンを押してから手順2へ進みます
- [] または [] ボタンを押して、割り当てたい機能の表示にします。
- PTT（通話）スイッチを押して終了です。

[CUE] ボタンに割り当てることができる機能		
表示	機能	
	短押し	2回続けて短押しすると、CUE 緊急信号を受信した時のアラーム音を一時的に鳴らないようにできます。
	長押し	「ビビッ」と電子音が鳴るまで押し続けると、CUE 緊急信号を送出して、グループ全員のトランシーバーにアラームを鳴らして緊急連絡を通知します。
	短押し	DCSコードを設定している場合、呼び出し音を鳴らして相手を呼び出します。
	長押し	エマーゼンシー機能が動作し、アラーム音を鳴らして緊急事態を知らせます。
		相手の電波が弱くて音声が届いて聞こえる場合、押している間、相手の音声聞きやすくなる場合があります。同時に信号強度(Sメーター)を表示します。 信号が無い時は“ザー”という雑音が聞こえます。
	短押し	受信中の音声を約3分間ミュート(消音)します。3分以内でも、もう一度短押しするとミュートは解除されます。
	長押し	もう一度押すまで、受信中の音声をミュート(消音)します。
	短押し	セットモード“VOX”がONの時に、VOX機能を一時的にON/OFFします。OFFの時は“ー”が表示されます。
	長押し	長押しで動作する機能はありません。
		“PA(拡声器)機能”に対応している当社の中継器を使用しているときに押しながら話すと、中継器本体のスピーカーから音声を出力します。
		マルチチャンネル待受受信時に、あらかじめ決めておいたチャンネル(セットモード“S-CH”で設定したチャンネル)で送信します。
		コールサイン(電子音)を送出します。 電子音をセットモード“CLSG”で設定した回数鳴らして相手を呼び出します。

PTT（通話）スイッチに割り当てることができる機能	
表示	機能
	通常の通話を行う時の設定です。 押しながら話して、相手の話を聞くとときは放します。
	“PA(拡声器)機能”に対応している当社の中継器を使用しているときに押しながら話すと、中継器本体のスピーカーから音声を出力しながら中継されます。

モニター機能

相手の電波が弱くて音声が届いて聞こえる場合“モニター機能”を使用すると、相手の音声聞きやすくなる場合があります。

- 一度電源を切り、[] と [] ボタンを押しながら電源を入れます。
・モニター機能が動作します。
・信号が無い時は常に“ザー”という雑音が聞こえます。
- 電源を切るとモニター機能は解除されます。